

杉並区立東原中学校 図書委員会だより

School Library

令和6年1月29日発行 担当：2年生図書委員

1月号



がんばれ
受験生!



まだまだ寒い時期が続きますね。図書館では、空調がきいた暖かい部屋で落ち着いて読書を楽しむことができます。読みたい本がない方は、この図書だよりで紹介されている本を読んでみてはいかがでしょうか。ぜひ図書館に来てみて下さい。

(担当：2 [redacted])

図書委員のオススメ本

テーマ

冬



『季節をたべる 冬の保存食・行事食』

濱田 美里 著 596し

僕が紹介する本は「季節をたべる 冬の保存食・行事食」です。この本には、季節の中で最も寒い冬に食べるのがおすすめのレシピがたくさんついています。例えば、体が温まる冬のご飯や冬の行事食など冬でしか味わえないものもたくさんあります。作り方も分かりやすく簡単にできる料理もたくさんあるのでおすすめです。

ぜひ読んで、作って寒い冬を乗り越えましょう。

(担当：2 [redacted])



『クリスマス・キャロル』

ディケンズ 著 B933で

私が紹介する本は「クリスマス・キャロル」です。

舞台はロンドン。下町で商売をしているスクルージは、強欲で、思いやりの欠片もない人物として嫌われていました。慈善的な寄付なんてものはもってのほか、7年前に亡くなった共同経営者のマーレイの葬式から、副葬品であるお金を持ち去ってしまうほどでした。そしてクリスマスの前日の夜、そんなスクルージの前にマーレイの幽霊が現れ…そんなあらすじから始まるこの物語は、昔からの名作として親しまれており、最後の結末には胸の奥に暖かいものが溢れます。ぜひ、手にとってみてはいかがでしょうか。

(担当：2 [redacted])

『走れ犬ぞり、命を救え!』

メアリー・ポープ・オズボーン著 (蔵書していません)

今回紹介する本は、マジックツリーハウスシリーズの「走れ犬ぞり、命を救え!」という本です。この本は、ジャックとアニーが氷点下50度の猛吹雪のなか、伝染病の血清(病気を治す薬)を届けるために、犬ぞりで助けようとするお話です。

アラスカ(北アメリカ大陸の一番左の所)で本当にあった実話をベースにして作られています。面白くて楽しく歴史に触れられるのでぜひ読んでみてください。

(担当：2 [redacted])



「私と読書」

「秘密の花園」上・下 バーネット B933ば1・2



幼少期から本が好きで、小中学生の頃は毎日図書館に通い、長編小説のシリーズから昆虫図鑑まで何でも読んでいました。社会人になってからは電子書籍で年に数冊読む程度になってしまいましたが、インクの匂いを感じながら指で紙の本をめくる時間が楽しいので気に入った本は紙で買っています。

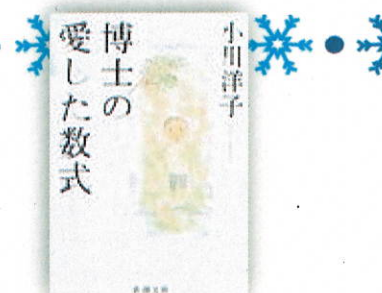
今回は児童文学の中から大好きな一冊を紹介したいと思います。フランシス・ホジソン・バーネットの「秘密の花園」です。両親をコレラで亡くした孤独な少女メアリーが、大きな屋敷に暮らす叔父に引き取られ、成長していくストーリー。屋敷の中にある「秘密の花園」に足を踏み入れ、知り合った人々と荒れ果てた庭をきれいにしていく中で、不思議な体験をします。この作品は細かな描写が丁寧で、まるで自分が小説の中にいるかのようなワクワク感や没入感を味わうことができるのが魅力です。特に、庭に草花が咲き乱れる様子は匂いや空気まで伝わってくるようで、いつまでも読んでいたくなります。とても読みやすいのであまり本に興味がない人にもおすすめです。

読書は、自分を知らない世界に連れて行ってくれる、ちょっとした旅行のようなものです。是非図書館に行って、様々な本に出会ってください。(担当：2 [redacted])



「私と読書」

「博士の愛した数式」小川洋子 B913 お



大学時代は、本(数学の専門書以外)よりも漫画だった私でしたが、卒業後教壇に立つようになり「数学嫌い」の生徒をどのようにして私の授業に引き付けるかだけを考え「数学の歴史」であったり「ゼロについて」といった様々な数学の本を読むようになりました。

ほかに読むのは腰痛を軽減するための本などは読んでいました。

そんな私が新しい数学の本を探しに書店を訪れた時に目に留まったのが小川洋子さんの

「博士の愛した数式」でした。題名だけ見ても何のことだか全くわかりませんでしたが、「記憶が80分しかもたない」という一言が入り余計に興味を惹かれ読んだのを思い出します。

「素数」であったり「ルート」であったりと中学生でもわかる数学用語が多々出てきます。映画にもなった本です。是非一度読んでください。

(担当：2 [redacted])

